活動事例

青年部・女性部

「一店逸品運動」で個店活性化を

佐賀県大町町商工会青年部・女性部

消費者ニーズの多様化や競争環境の激化に伴い、地域商工業者には個性や専門性、機動性が一層求められています。個店活性化の手段として、全国的に導入が試みられている「一店逸品運動」に大町町商工会青年部・女性部員を中心とした有志一六名が取り組みをスタートしました。

【一店逸品運動とは】

「逸品」を一言でいうと、「お客様に喜んでいただけて、なおかつ、お店らしさを表現できる商品やサービス」のことです。この逸品・逸サービスを研究会を通じて継続的に開発・発掘し、逸品フェアというお披露目を定期的に開催していく一連の活動を逸品運動と呼んでいます。

大町町商工会では、この運動を昨年十一月から始めており、以後二〇数回の研究会を重ねた末、今年五月に第一回のフェアを開催いたしました。

① 研究会（平成十七年十一月～平成十八年五月）

研究会は、九月に実施した逸品運動普及講習会を通して趣旨に賛同した青年部・女性部員を中心としたメンバー一六人で結成。リーダーには商店街で鮮魚店を営む山下青年部副部長が選ばれ、まずはメンバー同士お互いの店を訪問。売っている本人はこれがおすすめ！と思っていても、消費者の目では意外と別の商品に興味を持ったり、個店訪問では新しい発見が見られます。次に、メンバー各々が逸品候補を持ち寄り、自分なりのこだわりを紹介。

当初は、部員同士気心が知れているとはいうものの、いざ他人の商品やサービスを前にすると、「口を挟みにくい。褒め言葉ばかりになってしまう」という声が多かったようですが、研究会を重ねるうちに、徐々に改善へ向けての前向きな意見が出てくるようになりました。

研究会の様子

② 内覧会（五月十九日）

研究会を通して完成した逸品をいよいよ披露、評価してもらう場が内覧会です。内覧会ではマスコミや一般消費者の方をお招きして運動の趣旨を説明、その後、店主自らがそれぞれ与えられた持ち時間で逸品のプレゼンテーションを行いました。

終了後のアンケートでは、「これを機会に商店街で食事したり、買い物する機会を増やしたい」「他町から大

のぼりイメージ

逸品フェアサテライト会場

内覧会での説明にも力が入る

町へ出向いてくれるよう継続的な努力をしてほしい」など、数々の期待が寄せられました。

③　逸品フェア（五月二十六日～六月一日）

第一回一店逸品フェアは一週間かけて各店舗で開催。店頭に掲げられた白い「がばいよか」のぼりが参加店の目印です。

今回は第一回ということもあり、イベント性を持たせず、逸品のみをPRしたこともあり、どっとお客様が押し寄せたという店は少なかったようですが、中にはわざわざ逸品を求めてご来店いただいたという店、逸品以外の定番商品も売れたという声も聞かれました。一方で、普段と変わりなく、お客様の反応は今一つだったとおっしゃる方もいらっしゃいました。

逸品フェアはイベントや売り出しではありません。今後、お客様に店に足を運んでいただくため、お客様の記憶に残していただくためのきっかけ作りの期間です。ですから、フェア中に売れた、売れなかったということがすべてではありません。一ヵ月後、二ヵ月後のお客様の反応はどうなのか、長い目で見ていく必要があります。

【効果】

一連の運動を通して、数え切れないほどの効果・反響があったと思います。

中でも最大の効果は、一六名の新たなネットワークができたことではないでしょうか。研究会発足から一名の脱落もなく、最後まで和気藹々と研究会運営ができました。これも、青年部員による強力なリーダーシップと、女性部員のきめ細やかなサポートがあってのことだと思います。このネットワークを通して、お互いに店舗を利用しあったり取引に発展したりと、相乗効果はあらゆるところへと広がりを見せています。

また、ソフト面での効果としては、「意識改革になった、また商売を頑張る気になった」「自分に自信が持てるようになった」「手応えを感じた」など事業意欲が再燃した部員もおり、今後の商売のあり方を考え直すよい転機になったようです。

「がばいよか」のぼりは、リーダーである山下青年部副部長自らがデザインしたものです。カタログの校正は松永青年部副部長がエクセルを駆使し、掲載写真は写真館を営む池田女性部長の手によるものです。何しろ補助金に頼らず、身銭と知恵を出し合い、自分たちでできることはすべてやろうというエネルギーはこれまでになかったことです。

【反省点】

逸品フェア終了後の反省会では、取り組んでよかったとの声とともに、多くの改善点が見つかりました。最も多かったのが、「一般のお客さんにフェアのPRが行き届いていなかった」「参加店が少なく一体感に欠けた」「個店の演出や逸品のアピールが不足した」など、次回開催へ向けての具体的な提案が飛び交いました。

【今後に期待すること】

何か行動を起こさなければ何も変化はありません。とにかくやってみて、ダメならまた考えればいいというプラス思考で、二回目、三回目と続けていく手ごたえをつかめたようです。とにかく動くことから始める！今回の逸品運動をきっかけにもっともっと元気な個店が増えていくことを期待します。そして、「がばいよか」を佐賀県商工会ブランドとして確立するため、商工会の中核である青年部・女性部を中心に取り組みが広がっていくことを期待します。